



PROGRAM NOTE

2021年09月

開局90周年 HCJB誕生物語

HCJBが南米アンデスの峰高くから第一声を放って90年。四文字のコールサインをそのまま Heralding Christ Jesus's Blessings<イエス・キリストの恵みと祝福を伝える>を目標として掲げ、世界初の国際放送に乗り出した貢献者クラーレンス・ジョーンズ博士の数奇な運命をたどってみたいと思います。

ジョーンズ博士が生まれた1900年（明治33年）でした。当時は、フランスでパリ万国博覧会が開かれ、アメリカでは電気バスがニューヨークの街を走りはじめた頃でした。父親がアメリカ中西部の大都市シカゴで救世軍プラスバンドメンバーだったため、少年時代から楽器に親しんでいたので、聖書学校の学生時代には著名な伝道者ポール・レーダー師に才能を認められて、ラジオや野外集会などで愛用のトロンボーンを演奏して活躍していました。1922年6月、シカゴの市民劇場の屋上で、シカゴ市初のラジオ局WHTが市制記念番組を中継放送することになった時、プラス・アンサンブルの一員だったクラーレンスは「ラジオ放送」を初体験し、時代の新しいメディアとなった「ラジオ」に驚きと興味を覚えたのでした。

ミシガン湖のパイブル・キャンプで奉仕していた時、湖畔にたたずむたクラーレンスの耳元に静かな声が聞こえてきました。「立って南へ行け」つづいて「ラジオ放送するために」という言葉が聞こえたのです。まわりでは誰も本気にしてくれなかつたのですが、その後、同じアパートに、南米エクアドルから宣教師家族が帰国して住むようになり、南米の話を聞くうちに、「南へ行け」と言われたのは「エクアドル」かも知れないと思い「放送」の話をしたところ、思いがけず、放送時間の20%を国のために使ってくれるなら許可するという朗報が舞い込んだのです。ジョーンズ博士の心は奮い立ちました。「神が指示す先には、必ず神の助けがある。燃えた炎は消せない」と立ち上がり決心したのです。

ニューヨークの港から出航して12日間の船旅の後、エクアドル太平洋岸の港町グアヤキルに着岸したのは1931年（昭和6年）の夏の終わりでした。そのあと、列車、バス、トラックなどの積み直しを重ねて、やっと目的地の海拔三千メートルの首都キトへ。「ここが神の選ばれた地。この山へ登れと言われたのだ！」アンデスの空を仰ぎながら「放送」へのビジョンとチャレンジに心が震えました。

まずはスタジオ作りです。自宅の居間にガラス窓をつけコントロール室。スタジオの部屋はカーボン・マイクを天井からつり下げ、送信機の梱包に使った板を防音の壁にし、床は赤いベルベットの布を敷いて完成。裏庭に出ると、泥壁にトタン屋根の小屋が見つかったので、早速日干しレンガで壁や床を修復し50ワット送信機を据え付けると羊小屋が送信所に変身。アンテナは、鉄柱は望めないので、電話会社に電柱の予備はないかと頼むと、皮を剥いだだけのユーカリの木が届きました。その2本を支柱として埋め込み、その間にアンテナ線を張るのは、庭師の息子のペドロ少年が横から「ボクにやらせて」と申し出て、ロープを口にくわえ、すると猿のように支柱を登って、地上26メートルの高さに長さ60メートルのアンテナを見事に張ってくれました。こうして送信アンテナ第一号（5986キロサイクル用・長さ50.26メートル）が赤道直下のアンデスの空に姿を見せました。

1931年（昭和6年）12月のクリスマスを放送開始日と決めて、技術担当のエリック氏が送信機をチェックをしていたところ、突然、送信機の整流真空管が青い光を放ちパンクしてしまったのです。予備の真空管は税関で盗まれたので手元になく、万事休す。幸いエクアドル在住のアマチュア無線仲間と連絡が取れ、200キロの山道を往復して、本人が使っていた真空管を用立ててくれたので危機一髪。HCJB局からの第一声は予定通りの時刻にアンデスの空を駆け抜けることができたのです。

こうして迎えたクリスマス当日。HCJBスタッフはスタジオ、と言っても自宅の広間ですが、そこに全員集まり、アメリカから大事に運ばれてきたジョーンズ博士の家に代々に伝わる大型の柱時計が午後の3時を打つと同時に放送開始。ジョーンズ博士のトロンボーンの演奏。女性デュエットの賛美歌の後、スペイン語と英語でメッセージが語られて30分の番組を無事に終えたのです。放送終了とともに電話のベルが鳴り「番組はこれから終わりまで大変よくきこえました」という第一報に全員がほっと胸をなぜおろしたのです。

あれから90年。HCJBはグローバル化の波に乗り各国語による放送を続けながら、21世紀の幕開けとともに、アンデスの峰からの放送だけではなく、世界各地に乗り出し、医療、地域開発などの面で積極的に活躍し、必要な人材育成にも力を入れています。団体名はリーチビヨンドになりましたが、これからも、神を愛し、人を愛する世界実現を目指して、与えられた使命達成に邁進しているのです。

サタデー・トーク

きき手 尾崎一夫 每週土曜日放送	淀橋教会 峰野龍弘主管牧師 毎週日曜日放送
9月04日 開局90周年（1931～2021）HCJB誕生物語	9月05日 聖書遊覧バス ヨセフ物語（4）
9月11日 折り紙の詩（11）（バルトの国から）	9月12日 聖書遊覧バス ヨセフ物語（5）
9月18日 サボテン日記（14）砂漠の小動物たち	9月19日 リスナーからの「お便り交換の時間」
9月25日 マリンバの調べ エクアドル音楽特集	9月26日 聖書遊覧バス ヨセフ物語（6）

放送後の番組は、ホームページ(<http://japanese.reachbeyond.jp>)のトップページ左側メニューにある『インターネット放送』のリンクページからお聴きいただけます。（mp3形式）

放送時間：日本時間 午前7時半～8時 15410kHz （再放送） 午後8時～8時30分 15.565kHz
(米国アリゾナ州制作／オーストラリア送信)

